



第37回デンソーカップチャレンジサッカー茨城大会を終えて（2/27～3/4）



中国地域（広島県）派遣審判員
広島国際大学3年 上瀬 琉

はじめに

この度は、第37回デンソーカップチャレンジサッカー茨城大会への派遣推薦を行って下さいました中国大学サッカー連盟の関係者の皆様。大会期間中においては全日本大学サッカー連盟、関東大学サッカー連盟、茨城県サッカー協会関係者の皆様および宿泊施設の方々へ心より感謝申し上げます。審判員として、大学サッカートップレベルの試合を担当できたこと、運営に携わり大会成功に寄与できたことを大変うれしく思います。

・今大会へは四国地域を除く各地域から大学生審判員14名が派遣されました。

(北海道2名・東北1名・関東2名・北信越1名・東海2名・
関西2名・中国2名・九州2名)

(14名の派遣審判員の内、2級12名、3級2名)

・インストラクター

→赤阪氏(現1級審判員)、辛島氏(現1級審判員)、
金(キム)氏(茨城県)、原田氏(埼玉県)、
青山氏(東海)、増山氏(関東)

大会期間中のスケジュール

開催期間：2月27日（火）～3月4日（土）
開催場所：ひたちなか海浜公園

時間	2/27 (Mon)	2/28 (Tue)	3/1 (Wed)	3/2 (Thu)	3/3 (Fri)	3/4 (Sat)
6						6:30 起床・朝食
7		7:00 起床・モーニングTR	7:00 起床・モーニングTR	7:00 起床・モーニングTR	7:00 起床・モーニングTR	
8		7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 出発
9		9:00 出発	9:00 出発	9:00 出発		
10					10:00 出発	9:30KO 【順位決定戦】 競技場/スポーツ広場1/2
11		11:00KO 【グループリーグ第1節】 競技場/スポーツ広場1	11:00KO 【グループリーグ第2節】 スポーツ広場1/2	11:00KO 【グループリーグ第3節】 スポーツ広場1/2	11:00 研修⑤ JA茨城教育センター	
12					12:00 昼食	12:00KO 【決勝戦】 競技場
13					13:00 アクティブリカバリー JA茨城教育センター	
14		13:30KO 【グループリーグ第1節】 スポーツ広場1/2	13:30KO 【グループリーグ第2節】 スポーツ広場1/2	13:30KO 【グループリーグ第3節】 スポーツ広場1/2		
15						15:00 閉講式
16						15:30 解散
17	17:00 集合					
18	18:00 夕食	18:00 夕食	18:00 夕食	18:00 夕食	18:00 夕食	
19	19:00 開講式&研修①	19:00 研修②	19:00 研修③	19:00 研修④		
20						
21						
宿泊	プレジデントホテル水戸（茨城県水戸市城南2-2-2）					

2 / 2 7 （集合日）

夜にホテルの研修室にて、第1回の研修（自己紹介、大会要項の確認、競技規則テスト）を行いました。

また、大会として・審判員としてのそれぞれの今大会での目標を確認しました。

<大会>

選手がフェアで安全にプレーできる環境を作る

<審判員>

自己課題の抽出および課題に対するアプローチ方法について明らかにする

2 / 2 8 (グループステージ 1 試合目)

関東選抜A対日本高校選抜の副審 2 に割り当てを頂きました。

主審：水本 (関西 2 級)

副審：野際 (九州 2 級)

副審：上瀬 (中国 2 級)

4 th：松井 (東海 2 級)

INS：辛島氏



<振り返り>

今大会最初の担当試合になりました。今まで担当してきた試合と比較し、試合のスピード感・タフさなど多くの点でレベルが高いと感じました。ボールの出どころとディフェンスラインを首を振って確認し、ラインキープを行いオフサイド判定を自信を持って行うことができました。

反省点としては、主審との指し違いです。自信があり指したものもありますが最終的には主審の決定になるので、選手を混乱させない、信頼を得るためにもアイコンタクトをして判定を合わせることもう少しできていたらと感じました。

3 / 1 (グループステージ 2 試合目)

関東選抜A対プレーオフ選抜の主審に割り当てを頂きました。

主審：上瀬 (中国 2 級)
副審：宮島 (北信越 2 級)
副審：植出 (関西 2 級)
4 th：大石 (東海 2 級)

INS：赤阪氏、辛島氏



<振り返り>

今大会2試合目に主審を担当しました。緊張はありましたが、対角線の意識や串刺しにならないポジショニング、争点から離されないようにスプリントをかけて近すぎず遠すぎない位置からプレーを監視、判定することができました。また、レフェリーサイドへ開く動きや幅を取る動きなど今まで中国地域および広島県でご指導いただいた部分を発揮できました。インストラクターの方々からは「判定基準は試合にフィットしており、走力とスプリントの速さ、走る時の姿勢が綺麗である」と多くのことを褒めていただきました。自身としても納得のいく、楽しむことのできた良い試合となりました。



反省点

指摘された点としては注意や警告を示す場面でした。この試合
では2枚の警告を示し、何度か選手に注意を行いました。その際、
「自身の人柄（悪い意味でやさしさ）が出てしまっているように
感じた」、「淡々としていた」と指摘を受けました。注意をする
ということとは、選手に「さっきのプレーは危ない、ダメだ」とい
うことを伝える、伝えることによって次に同じようなプレーが起
きない、起こさせない抑止となる必要があります。注意をすると
うことの意味を再度確認する機会となりました。

警告を示す場面としては、具体的に守備側競技者がカウンター
となる攻撃を肩を掴んで倒し止めたシーンがありました。その際、
警告を示しましたがファウルを犯した選手は背中を向けて遠ざか
りました。その際、ただ警告を示すのではなく呼び止めて注意を
することも必要であったと指摘を受けました。「警告を示した＝
抑止力/選手はもうやらない」とはならないことを考えて、警告
を示さなければいけないと感じました。

3 / 2 (グループステージ 3 試合目)

日本高校選抜対プレーオフ選抜の副審 1 に割り当てを頂きました。

主審：野際 (九州 2 級)

副審：上瀬 (中国 2 級)

副審：松井 (東海 2 級)

4 th：千條 (東北 3 級)

INS：増山氏



<振り返り>

今大会3試合目は副審を担当しました。1試合目の副審を担当した際には指し違いがあったことを踏まえて、よりタッチジャッジの際には主審とのアイコンタクトを大切にして、この試合では指し違いなく終えることができました。インストラクターからは特に指摘事項はありませんでした。

余談にはなりますが、今大会のプレーオフ選抜のコーチを元日本代表の中村憲剛氏が務めておられました。試合後には握手に来ていただけ、大変うれしい機会となりました。

3 / 3 （休息日） @JA茨城教育センター

この日は、JA茨城教育センターにて研修およびリカバリートレーニングを行いました。研修では、グループステージで起きた事象について皆でディスカッションを行いました。リカバリートレーニングでは、ジョギングや体幹トレーニング等を行いました。

トレーニング後には、14名＋インストラクター2名で毎年恒例のミニサッカーを行いました。皆で楽しく汗を流すことができました。

3 / 4 (順位決定戦および決勝)

決勝：関西選抜対東海選抜の副審1に割り当てを頂きました。

主審：水本 (関西2級)

副審：上瀬 (中国2級)

副審：大石 (東海2級)

4th：中島 (中国2級)

INS：青山氏



<振り返り>

大会最終日、関西選抜対東海選抜の決勝の副審1を担当しました。平常心で90分間務めきることができました。また、審判チームとして協力して試合を何事もなく終えることができました。

1つ自身の反省点を挙げるとするならば、後半アディショナルタイムの東海選抜にコーナーキックを与えた場面です。主審と私からは守備側競技者（関西選抜）が最後にボールを触れてピッチの外に出たと感じたため、東海選抜のコーナーキックを指しました。しかし、実際にはゴールキックとすべき判定でした。あの場面で私は、ボールが最後にどちらのチームが触れたかという部分に注視しすぎていました。その時、東海選抜の選手はゴールキックだと思いどの選手も自陣の方へ戻っていました。あの時、もちろん判定の正しさも大切ですが、客観的に会場や選手の雰囲気等を加味することも判断材料のひとつだと感じました。

大会を通して

今大会では主審 1 試合、副審 3 試合を担当させていただきました。特に主審を担当させていただいた際には、多くの点を評価いただき自信を持つことができたとともに、より審判をすることが楽しい、また笛を吹きたいと思えました。また、決勝を担当できたという点でとても光栄に思いますし、担当した試合（特に主審）で良い評価をいただけたからではないかとポジティブに捉えています。今後、中国地域や広島県で今回出た成果は継続して、課題は自己解決策を考えたいうえでチャレンジして改善していきたいです。



各地域の学連審判部について

今大会中の研修会にて、各地域の学連審判部の発表がありました。北海道、東北、北信越、関東、東海、関西地域については、学連審判部で大学主要大会（大学サッカーリーグ・新人戦・Iリーグ・県リーグ）の運営および割り当て管理を行っていることが分かりました。特に東海学連審判部においては、割り当て管理、運営に加えて、経理部も学生で行っており大人ではなく全て学生で行っていました。多くの地域で学生が主体となって大学サッカーを運営しているのだと感じました。中国地域としては、まず学連審判部のメンバーを増やし、中国新人戦等を学生審判で担当していけたら良いなと思います。

最後に繰り返すにはなりますが、第37回デンソーカップチャレンジサッカー茨城大会へ推薦を行っていただいた中国大学サッカー連盟関係者の皆様。大会期間中については全日本大学サッカー連盟、関東大学サッカー連盟、茨城県サッカー協会関係者の皆様および宿泊施設の皆様、心より感謝申し上げます。

今大会での自身のパフォーマンスに満足せず、これからも自身のレフェリングにさらに磨きをかけ、日々精進していきます。



中国地域（広島県）

広島国際大学3年
2級審判員 上瀬 琉

2023 年度 全日本大学サッカー連盟審判員育成講習会①

(デンソーチャレンジカップ茨城大会) 参加レポート

中国 FA (岡山県) 中島巧実

大会期間：2023 年 2 月 28 日から 3 月 4 日まで

研修参加者：

(北海道) 高須賀哲平、一瀬哲平 (東北) 千條祐司 (北信越) 宮島 大典

(関東) 中島省吾、永井郁充 (東海) 松井隆之介、大石悠 (関西) 水本翔大、植出泰地

(中国) 上瀬琉、中島巧実 (九州) 野際 祐史、上原 丈実 [14 名]

講師：青山健太氏、赤坂修氏、増山舜氏、辛島宗烈氏、金玄虎氏

研修日程：

担当した試合

2 月 28 日：プレーオフ選抜-東海選抜 A 1

3 月 1 日：関西選抜-関東選抜 B A 2、日本高校選抜-東海選抜 4 th

3 月 2 日：U-20 全日本選抜-関東選抜 B R

3 月 3 日：東北選抜-プレーオフ選抜 (3 位決定戦) A2、関西選抜-東海選抜 (決勝) 4 th

担当した試合の振り返り

大会 3 日目のグループリーグの U-20 全日本選抜対関東選抜 B の試合を担当しました。

(試合の公式記録：https://www.jufa.jp/_data/pdf/p_1677743623.pdf)

全国レベルの質の高いプレー競り合いの中でも自信を持ってレフェリングをすることができ、自分のストロングポイントである判定の部分も満足いくように出すことができました。マネジメントの難易度もそれほど高くなく、無事試合を終えられることができました。

研修

夜の研修では、その日生じたキーインシデントを中心に映像を用いて振り返りを行いま

した。偶然にも3日間通して副審との協力がテーマで、ミドルシュートのゴールに対するオフサイドポジションにいる選手の関与やすSPAの判定から副審の協力によってDOGSOの判定に変わるシーンがありそれについての振り返り、ディスカッションを行い、副審とのどのような協力が良かったか、また、どのようにすればより良いか話し合うことができました。

地域プレゼン

今回の研修会では、それぞれの審判員が自分の地域での活動の紹介と、地域の学連審判部での活動の報告がありました。中国地域は審判部の発足がまだまも無いことから、わたしは岡山県の学連審判部の紹介をしました。全国的には県学連は存在はあるが活動をしていないか、存在すらもないとのことで、県でここまで充実した活動ができていることは他にはなく、ありがたく感じました。岡山県学連の所属人数や活動の幅は、他の地域学連と同じくらいかそれ以上であり、しっかりと岡山学連のことをアピールすることができて、発表のリアクションとしては、他の地域の審判員に羨ましいと言っただけでした。東海学連の青山健太先生もとても堀さんが岡山県学連を発展させておられることを感心しておられました。発表は堀さんが作成されたものを引用するばかりで申し訳ありません。他の地域の発表から得られたことはまたまとめて共有させてもらいますが、他の地域では、割り当てや帯同審判の管理など運営も学生が行っていて主体的な学連運営をしているところもあったので、岡山は堀さんがしてくれていることの受け身になって活動させていただいていることが課題と感じました。また詳しくまとめて共有しますが、岡山県学連をもっと良い組織にしたいと思いました。もちろん中国学連も活動して行ければ良いのですが、県レベルで充実しているのが岡山県ならではのよさだとも感じているからです。

(プレゼン資料：https://1drv.ms/p/s!Ap3TV9P8-gO_iDDpVTV3_Utiw2GB)



